

シライボイボナメクジ

Granulilimax sp.
新生腹足目・アシヒダネメクジ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認個体数が少なく、分類学的検討が進んでいないが、大野市と池田町で外部形態の異なる二系統の個体が確認されている。希少種であり今後の精査が求められる。

分布

本種のグループは山梨県以南沖縄、小笠原諸島兄島まで生息が確認されている。県内では大型道路・ダム建設工事環境アセスにより、大野市、勝山市、池田町、南越前町にのみ確認。

種の特徴

池田町産は乳白色の軟体部背面（外套膜）に微細な顆粒で覆われ、細長く縁どられ、触覚が灰黒色で目立つナメクジである。大野産、南越前町産は、淡橙色も軟体部背面に2本の黄褐色の帯が縦走する。

生息を脅かす要因

肉食性の種であるため、ほかの陸産貝類への影響がある。生息環境詳細が不明ではあるが、乾燥に弱い種であるため、森林や道路開発、異種混雑が本種の等が生存の脅威となろう。

参考文献 湊 (2015)、湊 (1989)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

クチベニマイマイ

Euhadra amaliae (Kobelt)
異鰓目・オナジマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

丘陵帯低地の自然性の高い樹林に生息する種であり、本県が本種の生息北限種である。過去に、丸岡町上竹田で生息が確認され、越前市鬼ヶ岳周辺一帯にも生息したが、今はみられない。普通に見慣れた嶺南平野部の生息地も局所的になり、個体群も小さい。

分布

日本国内の自然分布域は本州（中部～近畿）であり、平野部に普通にみられるカタツムリである。嶺南一帯に普通に生息するが、嶺北では局所的に分布する。

種の特徴

殻は中形で高 22 mm、殻径 30 mm、螺層は低い円錐形の 6 層。殻は光沢のある淡黄白色の地に黒色の色帯が現れるが、無帯の個体もある。円形の殻口外唇がピンク色から暗赤色になることが多い。内部は紫紅色。軟体部は背部が白色で両肩部に黒縦帯がある。

生息を脅かす要因

人家周辺の生息環境が、都市化により石垣や植え込みが少なくなり、温暖化やシカの下層食害により、自然性の高い社叢や落葉広葉樹下層が等も乾燥化し、生息できる環境自体が著しく狭められたと考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、長谷川 (1976)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、川名 (2007)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○		○				○		○	○	○	●

マルシタラガイ

Parasitara einhardii (Pilsbry)
異鰓目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

評価するだけの最近の情報が少ないが、県内産キョウトシタガイとの誤同定標本を精査する必要がある。近年増加したシカの森林下層の植生への食害等生息環境が劣化し、今後の動向に注意を要する。

分布

本種は、東北（南部）から九州までにかけて分布し、県内では海岸近くの丘陵地から低山地の落葉広葉樹林にもスギ・ヒノキ植林地にも普通にみられる。

種の特徴

日本固有種。殻高 3.5 mm、殻径 5.5 mm、5 1/3 層。薄質、透明に近い淡白色。螺塔が高く、球状の円錐形。体層は大きく球形。殻底は膨れるが、臍孔の周囲はわずかにくぼむ。

生息を脅かす要因

スギ・ヒノキ植林地の間伐、間伐材の放置、また、搬出林道建設や、今後増加したシカの下層植生の林床変化が生息環境の劣化に繋がることが想定される。

参考文献 岐阜博物館 (1997)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1982)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○			○			○					